

大変だった 昔の農業

毎年実施されている佐山小学校4年生の社会科郷土学習が、11月1日(休)、行われました。小雨の降るあいにくの天候でしたが、21名の児童が出席し昔の農業について学びました。

こうか まちかど 特派員 のページ

こうか
まちかど特派員
はた ひさお
畑 久男



佐山の昔の 農業を学ぼう

老人クラブの方を講師に、

講師となるのは、佐山区四字の老人クラブの方で、学校近くの収穫の終わった田んぼで、準備された古い農具を使つての体験学習です。始めに、老人クラブの方から昔の農作業が大変だったと説明があり、続いて4班に分かれて、実際に農具を使つて学習をしました。

道具類は、学校に保管されていたものや、講師の皆さんが持参されたものを使用しました。



土もち

土もち

春の耕作前に水田に土を持ち込むための「土もち」。

「のんご」といわれた道具に土を入れ、かついで、竹で組んで作つたいかだの上を歩くのですが、当日は雨ですべるので、側を通つての実習でした。

稲出し

木製の舟に刈り取つた稲を積んで田んぼの中を押し出し、干す場所まで運んだ「稲出し」。児童が二人で協力しても大変な作業です。

水かえ

水不足の時、小川などからバケツやおけを使い二人



水かえ

で呼吸を合わせての「水換え」、当日は学校のプールでの学習でした。また、水鉄砲の原理を応用したかのような道具にも子どもたちは興味を示し、実習を繰り返していました。

畦掘り・床張り

夏の日照りで干ばつとなり、水の貯まらなくなった田んぼは、耕作までに表面の土を掘り上げて、「畦掘り」や「床張り」といわれた作業を行います。これも大変な仕事であつたと思われ、子どもたちも指導のとおり実際に「きね」を使つてた

たいしていました。こうした作業をしないと水を溜めての稲作ができませんでした。

昔は体を使った重労働ばかりの佐山の農業でした。現在のよに機械ばかりを使用する米作りからは想像もつきませんが、楽になつてもだんだんと田んぼが荒れていく現在を思うと、こうした学習が長く続いていくことを祈りながら取材を終えました。



床張り

老人クラブの方を講師に昔の農業を学ぶ佐山小4年生の児童